



郷間 康久
(市民連合)

駅弁で 食のブランド戦略を

問 市は餃子を核とした食のブランド戦略を展開し、観光客誘致や都市魅力の発信で大きな成果を結んでいるが、餃子に次ぐ愉快的味を発掘し複合的な食のブランド戦略を展開すべきである。

答 宇都宮駅で発売された日本初の駅弁の復刻弁当のお握りに、冷めてもおいしい宇都宮産の米、ゆうだい21を使用したり、宮牛の挽肉を使った高級ハンバーガーを開発するなどではどうか。また、駅弁バトルや全国の駅弁フェアを定期的に開催し、駅弁でつながる街一つのみやを食のブランド戦略に追加してはどうか。

これまで民間事業者が、栃木の名物を集めた駅弁を首都圏で販売してきたほか、地域の歴史や文化などにちなんだ駅弁をJR宇都宮駅で販売するなど、観光資源として活用が図られてきている。今後は、駅弁の観光パンフレットへの掲載など、民間事業者の取り組みを支援する。また、駅弁を活用したイベントなどについても関係団体と検討しながら、食を活用した観光振興に取り組み、ブランド力の向上を図る。



▲餃子の弁当

その他の質問項目

- ①市長の政治姿勢(LRT整備事業、附属機関等の公募委員など)
- ②市街化調整区域の整備及び保全の方針
- ③農業政策(米政策の見直し対策、農福連携の推進など)
- ④処理限界状態の農業集落排水事業
- ⑤宇都宮テクノ街道の整備に伴う市道305号線の拡幅工事



宇賀神 文雄
(社民党)

放射能汚染 市による支援を 充実すべき

問 福島第一原発事故から6年半が過ぎたが、いまだに避難を続けている人が約6万人いる。

答 ①現在、市民団体「みらいを想う母の会」が、独自に子どもが遊ぶ公園などの放射能汚染の調査をしているが、民間や市民の調査活動に対する市の支援策はあるのか。
②他市では、市民団体が甲状腺工コー検査を実施しているが、ボランティアでは限界があると聞いた。県内では、甲状腺工コー検査やその助成を行っている自治体もある。市でも甲状腺工コー検査を行うべきでは。

り、放射線量は国が示した目安を下回る低レベルで推移しているため、民間調査への支援は考えていない。

②放射線による健康への影響に関する有識者会議で、24年と25年の2回、「栃木県は、将来にわたって健康影響が懸念されるような被ばく状況になく、臨床的な検査を含む健康調査等が必要ない」との報告があった。現在もこの報告書の評価に変更がなく、県では甲状腺検査の必要はないと判断しており、市でも検査実施の必要はないと判断している。
今後、必要な情報を提供しながら、市民の安心感の確保に努めていく。



▲放射線量調査の様子

その他の質問項目

- ①困難を抱える子どもたちへの支援
- ②公契約条例
- ③石那田町原坪集落の水害
- ④市内の老人クラブ
- ⑤LRT導入問題



西 房美
(緑の党)

市の顔として 駅前大通り整備を

問 JR宇都宮駅西側の大通りの歩道は、23年の東日本大震災の際に入ったひび割れや亀裂が現在も修繕されておらず、危険である。当該歩道の管理者である県に修繕を要望したが、対応がない。

答 県から権限移譲を受け、市道と同様に速やかに修繕すべきと考えるが、市の考えを聞く。
また、大通りの街路樹は葉が大きく、落ち葉が滑りやすいため危険である。常緑樹に植え替えるべきと考えるがどうか。

線の地中化や歩道の美装化、街路樹などの整備を県が行ってきた。こうしたことを踏まえ、これまでどおり、県による管理が適切であると考えている。

街路樹については、県が沿道自治会などの関係者と検討を重ね、県木であるトチノキを選定した経緯があり、沿道の方々の景観維持の努力により、良好な景観を創出していることから、常緑樹への植え替えは困難であると聞いている。

市としては、安全・安心な通行の確保のため、利用者からの修繕要望を速やかに県へ情報提供するとともに、街路樹の適切な維持管理について、併せて依頼していく。



▲駅前大通りの街路樹

その他の質問項目

- ①新里町に予定されている太陽光発電施設周辺の環境破壊
- ②敬老会
- ③災害時の障がい者の避難
- ④LRT
- ⑤農業の問題